

第 47 号

平成 28 年 4 月 1 日

理
窓

理窓教育会報

東京理科大学理窓教育会

事務局 PORTA 神楽坂 7 階

巻頭言『ノーベル賞受賞 大村智先生に学ぶ』

理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理化)

2015 年のノーベル生理学・医学賞は東京理科大学大学院で学ばれた大村智(おおむらさとし)北里大特別荣誉教授が受賞されました。業績は「寄生虫による感染症に対する新たな治療法の発見」で、具体的には化合物「イベルメクチン」を地中の微生物が作ることを発見したことです。製薬会社のメルク社と共同で薬を開発し、アフリカで年三億人の人を救っていると伺いました。

大村先生は私が大学 3 年の時に一年間天然物化学を教えて頂きましたが特に思い出深い先生です。当時私は化学科に在籍して、今後何を専攻して行くか悩んだ時期でもありました。専攻したいテーマが二つあり、中学時代から興味のある「界面活性剤」か、大村先生に指導して頂いた「天然物化学」でした。天然物化合物の糖・タンパク質・アルカロイドなどから代謝系や遺伝子の構造、抗生物質の開発の話を興味深くかつ面白く学びました。最初の抗生物質ペニシリンは 1928 年に偶然そのまわりに菌が成長していなことからフレミングが発見し、アオカビの属名である *Penicillium* にちなんで“ペニシリン”と名付け、実用化した研究者と共に 1945 年にノーベル賞を受賞しました。

ところが結核菌には効きません、結核菌は細胞壁が壊れにくいのです。そこでワックスマンがストレプトマイシンを発見し 1952 年ノーベル生理学・医学賞を受賞しました。ワックスマンは抗生物質の英語 *antibiotics* の考案者としても知られます。私は当時この抗生物質誕生の話を大変わくわくしながら聞きました。そこで高校生にも私のように感動して欲しいと思い、

学習項目に入れて頂くように、学習指導要領の編成に関わった折にお願いしました。教科書にも取り上げられています。

さらに大村先生が関係した比較的副作用が少なく、効き幅が広い抗生物質であるマクロライド系抗生物質ロイコマイシン A 3 のお話は今でも鮮やかに覚えています。大学を出て定時制高校の化学の教師をしながら大学院に通ったことや当時、日本に一台しかない NMR (核磁気共鳴) の機器を使って化学構造式を推定したことを伺いました。NMR は現在、医療で MR I として人体の断層撮影に使われています。

私は界面化学を専攻し大学院に進み、会社の研究所に勤めました(その後、教職につきました)。天然物と共通することにも興味を持ち、身体の中にある界面活性物質であるリン脂質が呼吸の時に泡状になっている肺の肺胞の拡張に役立つことを知ったことを思い出します。大村先生に指導を受けようと先生のお名前のさとし(智)の読み方を伺いに行ったこともありました。天然物化学の教科書は今でも校長室に置いてあります。大村先生から、私が多くのことを学んだことご披露させて頂きました。

現職の先生方には、大村先生のことをぜひ生徒の皆さんにお話してほしいと思います。

教員養成の大学と違い、本格的に専門を指導する我が東京理科大学で学んだことはその後の理数の力を伸ばす事が出来る強みとなります。

今後も大村先生の後へ続く多くの人材を育てていけるよう努力していきたいと考えます。

(私立文華女子中学・高等学校校長)

支 部 報 告

北海道支部総会報告

支部長 (54 理工数) 佐々木 高至

平成 27 年度の総会・懇親会は平成 27 年 9 月 26 日 (土) 午後 6 時から札幌駅近くの会場で開催しました。残念ながら、支部長である私自身が、急遽国体 (和歌山) への出張が入り、新支部長としての責務を果たせず、佐藤事務局長に全てをお任せしました。以下、その時の様子を佐藤事務局長から聞いた様子を報告します。

参加者は 7 名でした。そのうち、初めての参加者が 4 名で、遠方から足を運んで下さいました。今年度は役員改正がなかったので、懇親会として開催しました。参加者は、年齢も勤務先も異なりますが、日々の教育実践や近況報告などで大いに盛り上がりました。

現在の課題は、参加者を増やすことと、新しい会員の把握です。名簿では 112 名ですが、ここ数年は新規の確認ができていません。教育会や理窓会と協力し、支部の連携を強くしたいと考えています。

青森支部報告

支部長 (48 理工物) 阿保 民博

雑感「主権者教育」とは?

今年から 18 歳から選挙権が与えられることになりました。高校においては様々な方面から「主権者教育」の充実が求められています。そもそも主権者とはどのように位置づけられるのでしょうか? 我が国において主権者は国民です。国の行く末を決めるにあたって、選挙などをおしてその決定に参加でき、社会参加に意欲がある人を育てることがある意味、主権者教育の一面と思います。もちろん子供も国民ではありますが、選挙をおして国政には参加できません。高校生を考えてみますと、三年生になれば一部の生徒が国政に参加できる主権者となります。

さて、ここであらためて国の成り立ちを

考えてみます。非常にシンプルに言えば、民主国家は、納税者が納めた税金をもとに、国民の行く末に関する施策を実施し、納税者はその税金の使い道をチェックし、その是非を国民が選挙等をおして審判し、国の行く末を決めて行くと言うことです。その意味では、主権者を育てるということは、ある意味、しっかりと納税できる国民を育てるといってもよいかも知れません。納税するには、所得が必要です。所得を得るには、自らの能力を提供してその見返りとしての所得を得ます。それらのことを考えますと、高校において主権者として自立する人材を育てるということは、まずもってしっかりと力をつけさせ、納税できる国民を育てることが基本と思います。

岩手支部総会その他報告

理窓会岩手支部長 (54 理数) 千葉 仁

例年、理窓教育会岩手支部総会は、理窓会岩手支部総会と併せた形で行っており、本年度は、平成 27 年 11 月 14 日 (土) 10:30～「ホテルエース盛岡」で、15 名の支部会員の参加で開催されました。

始めに情報交換会として、北里大学名誉教授の野村節三先生から「大村智博士のノーベル生理学・医学賞受賞を祝して」という題でご講演していただきました。野村先生と大村博士は北里研究所・北里大学薬学部で同じ研究チームのメンバーであったこともあり、共に取り組んだ研究内容やノーベル賞の業績についてのご説明があり、大村博士の研究に対する姿勢や人柄等についての紹介が印象的でした。

支部総会では、平成 27 年度の経過報告・会計報告及び平成 28 年度からの新役員が承認され、本部から来ていただいた本山理事長から現在の大学の状況及び理窓会及び維持会の活動状況についてご説明いただきました。

総会終了後、席を変えて懇親会を開催しました。支部会員は中高の教員や大学教員、一般企業の方等様々ですが、10 数年ぶりに参加された方、東日本大震災の被災地で活動して

いる方、初めて会に参加された方等の自己紹介や各会員の近況報告を交え、終始和やかな雰囲気懇親会となりました。

秋田支部総会報告

支部長(52 修化) 佐藤 秀子

平成 27 年度支部総会の報告をもって教育会の報告とします。

総会は、来賓として大学から常務理事の池北雅彦先生、理窓会から副会長の福田義克様、こうよう会からは秋田支部長の北條保様はじめ4名の方をお迎えして、昨年10月17日(土)に秋田市の「ホテルパールシティ秋田竿燈大通り」で開催されました。

昨年は、初めて出席者が 30 名に達しましたが、今回は 32 名の出席で全国平均に並びました。これは47支部中10番目の成績です。(他支部は H26 年の数字)。

さて、総会では予定した案件(会務報告・会計収支決算・役員改選)がすべて承認されました。

総会終了後、池北先生と福田副会長から大学と理窓会の現状についてのお話がありました。その中で、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生は、理科大の修士課程を S38 年に修了、理学博士の学位も S45 年に理科大で取得、また美術にも造詣が深く、神楽坂キャンパスにあるモニュメント「坊っちゃん塔」の建設にも尽力されたことが紹介されました。

次いで講演。講師は曾我貢誠先生(元東京都中学校教員、詩集「学校は飯を食うところ」著者、日本ペンクラブ会員、S52 理二・物理)。演題は「賢治と啄木の生と死」から現代の生き方を考える、でした。豊富な資料を使って、2人の異才について語って下さいました。

その後の懇親会では、和やかな雰囲気のもと、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。28年度の総会も今年同様、10月第3土曜日の15日に行います。是非お知り合いの方をお誘いの上、出席下さいますようお願い申し上げます。支部総会の報告と致します。

群馬支部総会報告

支部長(55 理数) 中澤 治

理窓教育会群馬支部総会は11月14日(土)に行われた理窓会群馬支部総会と同時に開催されました。群馬支部総会では猿谷理窓会群馬支部長の理学部物理学科時代の友人である信州大学教育学部教授の榊原保志先生に「発展途上国の理科教育」という演題でご講演を頂きました。主にカンボジアにおいて JICA が推進する「理科教育改善プロジェクト」に参加している様子を興味深くお聞きすることが出来、出席した多くの教育関係者にとっても大変有益な内容でありました。

また、大学側より常務理事池北雅彦様、理窓会会長石神一郎様、さらに維持会会長森野義男様のご出席もいただき母校の現況と今後の取り組みについて詳しく説明を頂きました。それは、これからの時代の変化に即した様々な大学変革への取り組み、および世界に大きく貢献する人材育成に向けた意欲的な理科大の教育活動に、母校のますますの発展を感じさせるものでした。

その後の懇親会では、各々が自分たちの大学時代の思い出を語ると共に、新設なった葛飾キャンパス等において、今の学生達が非常に環境の整ったキャンパスで学習、研究できることにうらやましいとの感想もありました。今後、教育界だけでなく各界で活躍する同窓生のネットワークをさらに広げ深めながら互いに情報交換し、自らのスキルアップも図ることで群馬県の理窓会および理窓教育会で繋がった人間関係が各々の有益な財産となって欲しいと願っています。

埼玉支部総会報告

支部長(54 理数) 足立 哲也

平成 27 年度理窓教育会埼玉支部総会は、平成 27 年 7 月 5 日(日)午後 1 時半からの理窓会埼玉支部総会・講演会・懇親会に合わせ、東京理科大学久喜キャンパスで、同日正午から実施しました。長澤智則顧問(理窓会埼玉支部長)にごあいさついただき、前年度事業報告、

同決算に続き、新年度人事案、事業計画、予算案等について慎重に審議しました。午後の理窓会埼玉支部講演会は、副学長に就任されたばかりの向井千秋先生の「宇宙飛行から学んだこと」というご講演でした。その後の懇親会も含め、気さくに話しかけていただき、たちまち大ファンになりました。

また、埼玉支部教育講演会を12月5日(土)午後4時15分から、JR大宮駅前のTKP大宮ビジネスセンター会議室を会場に実施いたしました。ご講演は、理窓教育会長の富岡康夫先生にお願いいたしました。演題は、「今後の理数教育について」でしたが、副題として「『SSHの今後』と新科目『数理探究』について」をいただきました。まず自己紹介を兼ねて、これまでの富岡先生のご研究や研究に影響の大きかった先生方のご紹介があり、それだけでも感動を感じるお話で、さらに日本の理数教育をけん引していただきたいと感じました。内容は詳細にわたり、昭和33年からの小中学校の教育課程や小中高の学習指導要領の歴史に沿った、我が国の学校教育の考え方の変遷や、次期改訂における方向性、そして、SSHの歴史とデータ分析や先生ご自身の想いなど、多岐にわたった興味深いお話でした。

東京支部総会報告

支部長 (48 理化) 富岡 康夫

平成27年度の理窓教育会東京支部定期総会は5月24日(日)午前11時30分より、東京理科大学神楽坂校舎3号館333教室で開催した。先立つ午前10時半より同教室で全国の理窓教育会の理事会を開催した。平成27年度も日程等の都合で書面総会を実施すること、平成26年度決算、27年度予算、27年度役員人事等の議案の検討を行った。監事として千葉、神奈川の近隣の教育会支部の理事も参加された。今年度も理窓会の東京支部総会が午後で開催される同日に教育会東京支部定期総会を開催した。教育会員が参加できるように学校関係者が4月始業式、入学式の緊張の日々か

ら生徒、教員も慣れて落ち着くこの時期が適切と考えて開催している。特に土曜日の午後はPTA総会などの学校行事が重なり出席出来ないことも多く、日曜日に理窓会東京支部と同日開催している。

支部総会は下條隆史高校部会長の司会で始まった。挨拶を理窓教育会東京支部長の富岡が行った。今の教育改革の流れであるグローバル、ICT、アクティブラーニングが進んでいること、次期学習指導要領では特に指導方法や評価内容が盛り込まれる動向を述べた。今年度も理科系大学で教員採用者が230名を超え、実績の継続と、今後の理窓教育会の発展のために会への積極的参加と会員拡大のお願いをした。次に報告および議事で、平成26年度各部・各委員会の活動報告、会計報告(案)、さらに平成27年度役員(案)について支部長から提案説明をし、了承された。平成27年度の活動方針(案)と27年度予算(案)の説明があった。松原担当理事より「第10回ホームカミングデー」への参加の呼びかけと大学主催に変更された「第7回坊っちゃん科学賞」への生徒発表のお誘い、理窓教育会が全面的に支援することについてのお願いがあった。

本総会終了後、会場を2号館211教室に移動し理窓会東京支部と合流し、総会を実施した。報告では大学から中根滋理事長より世界の理科大をめざしている現状の説明、石神一郎理窓会会長より理窓会の現状の話、森野義男維持会長より募金の要請があった。その後、この度東京理科大学に就任された向井千秋副学長より「宇宙飛行から学んだこと」と題した講演があり、重力が「少ない」、もしくは「ない」宇宙環境から得られる様々な面白い現象を医師としての経験をふまえてユーモアを交えて説明されました。最後に好きな言葉として「If you can dream it, you can do it. 「夢に向かってもう一歩」」を述べられました。懇親会は近県支部の役員の皆様やこうよう会の皆様も加わり、話の尽きない会であった。最後に向井副学長は中根理事長、藤嶋学長が世界の理工系大学トップを目指す理科大の姿を頼もしく語って頂いたのでお応えしましたとお話されま

した。楽しく交流が進んだ会であった。

千葉支部教職員部会からの報告

教職員部会長 (54 理数) 鈴木 隆文

平成 27 年度は 5 月 10 日に各部会事務局会議、6 月 7 日に役員会、7 月 25 日に教職員部会研修会を行いました。研修会では、前教職員部会長の森本氏の発案で、通常の教職員研修の他に採用 5 年以内の若手教員を集めての研修会を初めて実施しました。これは中堅となる年齢層の教員が少ない現状で、若手教員を育てることを目的としています。もちろん理窓会活動への参加という意味もあり大変有意義な研修会でした。

8 月 23 日に総会・講演会を行いました。この総会で支部長が小倉氏から眞田氏に、教職員部会長が森本氏から私、鈴木となりました。講演は学校法人香川学園メロス言語学院の事務局長様に日本に来る私費留学生の話をしていただきました。

年が明けてからの 1 月 31 日には新春懇談会・講演会を実施しました。これは企業人部会が中心となって企画・運営をしています。講演は千葉県企業人部会副部会長坂本氏のご自身の体験談と維持会会長の森野氏の物理学校創設者の方々についてのお話でした。この会には本山理事長と藤嶋学長をはじめ多数の大学関係者および他都県の部会長様もおいでくださいました。教職員部会からの参加も多数あり盛会となりました。

現在、千葉県支部では新会員の加入が少ないことが課題となっています。また、企業人部会と教職員部会に分かれています、そのことが検討課題となっています。

神奈川支部活動報告

支部長 (51 理化) 細川 秀夫

神奈川支部は、理窓会神奈川支部、神楽会 (県立高等学校管理職及び教育行政職の会) と連携を深めながら活動を進めています。

平成 27 年度理窓会神奈川支部定期総会は、平成 27 年 7 月 25 日 (土)、横浜中華街の傍

にあるローズホテル横浜で来賓を含めて 83 名の参加を得て開催しました。事業報告・事業計画、会計報告・予算案、規約改正の議案承認後に、秋山仁先生による講演があり、演題「想定外に対応する能力の育成」を拝聴し、教養を高めることができました。懇親会では中根滋理事長、藤嶋昭学長、石神一郎理窓会長を始めとする多くの来賓からご挨拶がありました。また、秋山仁先生と由美かおる様の素晴らしいアコーディオン合奏が披露されるなど和やかな雰囲気の中、美味しい中華料理と紹興酒を堪能しながら懇親を深めました。

平成 28 年理窓会神奈川支部新年賀詞交歓会は、1 月 23 日 (土) に総会と同じ会場で開催され、77 名の参加がありました。武藤泰典支部長の挨拶に続き、慶応義塾大学名誉教授・日本スポーツ学会代表理事の池井優様による講演、演題「オリンピックと日本外交ー“3つの東京オリンピック”を中心に」を拝聴しました。I 国家にとってのオリンピック、II 幻の東京オリンピック (1940)、III 東京オリンピックの実現 (1964)、IV 東京オリンピック (2020) の招致の成功 という組立で、参加の皆様は講演に引き込まれるとともにその内容の深さに感嘆されていました。来賓挨拶では本山和夫理事長、藤嶋昭学長、石神一郎理窓会長から大学、理窓会の状況についてご報告があり、着実な躍進を続ける東京理科大学と同窓の輪が広がっていく理窓会について認識を深めることができました。

また、平成 27 年度第 1 回神楽会は平成 27 年 7 月 20 日 (月) 海の日にかながわ労働プラザで OB14 名、現職 16 名、計 30 名の参加を得て開催しました。元神奈川県教育委員の内藤昌孝先生による講話「知識基盤社会の時代に求められるコンピテンシー」、続いて鈴木宏司先生の叙勲 (瑞宝双光章) を祝う会へと移行し、実りある会となりました。第 2 回は 12 月 14 日 (日) に開催し、「県立高校改革へ向けて (実践例)」のテーマで同窓の現職 2 名の県立学校長による講話を拝聴し、20 名を超える同窓が教育実践に関する研鑽に努めました。

このように理窓教育会本支部は様々な機会を活用し、会員の交流と資質向上に努めています。

静岡支部総会報告

支部長(55 修薬)樋口 和男

平成 27 年度理窓教育会静岡県支部総会は平成 28 年 1 月 16 日(土)に静岡市で開催されました。母校報告ではノーベル賞を受賞された梶田隆章先生と大村智先生の偉業と母校との関係及び小学校教員養成についての報告がありました。

梶田先生は本学理工学部物理学科の非常勤講師として教鞭をとられており、母校が世界トップレベルの教育をしていることが示されました。

一方、大村先生は都立高校定時制の教員時代に、働きながら懸命に学ぶ生徒の姿に触発され、本学で学ばれたとの経歴を持たれており、教員の勉強の場としての母校の伝統を示すとともに、元高校教員が取ったノーベル賞として多くの教員に誇りを与えてくれたと紹介されました。

特に本学の小学校教員養成特別プログラム修了者から採用者も出たとの報告では、会員から賞賛の声が上がりました。この報告を発端に、小学校教員のほとんどが文系出身者であり、理科や数学の楽しさを伝えることができている等々、小学校における理数教育の課題談義が盛り上がりました。理数教育のできる小学校教員の必要性、本プログラムへの期待の大きさを強く感じました。

最後に、「四則の混合計算は、なぜ掛け算や割り算を先にするように指導するのか、その意味を小学生にわかるように教えるにはどうすればよいか」との、会恒例である宿題も出され、改めて小学生への理数教育の大切さを共有できた会となりました。

長野支部総会報告

支部長 (54 理応数)横川 秀明

長野支部総会は信州支部総会に合わせ 10

月 17 日(土)松本市で開催されました。本学理事の吉本成香氏並びに山下正事務局長をお迎えし大学の現状報告に加え、同窓生の大村智先生のノーベル生理学・医学賞の受賞報告並びに入試結果や進路報告がされました。また、国際競争力の強化に向けた取り組みとして産学官連携の推進と、諏訪東京理科大学長の河村洋氏から公立化に向けての協議についてお話を聞きました。

諏訪東京理科大学渡田邊造准教授から「長寿県長野」～信州の長寿のヒミツを！信号処理で解析できるか～と題してクイズ形式でデータに基づいた長寿の理由をわかりやすく、丁寧な講演されました。信州独自の食材から人の腸の動きまで、情報工学を駆使した研究成果の分析に参加者一同感動しました。

当日は同窓の県内高等学校や大学で教鞭をとっている先生方も参加して、諸先輩と情報交換し交流を深めました。東京物理学校時代からの教育の伝統を受け継ぎ理数系教育はもちろん、工業系高校にて活躍しています。県内の高校では、諏訪東京理科大学と高大連携をはかり、特色ある高校づくりに努めています。このことによって、高校時代に学んだ理数教育に興味関心を持ち、東京理科大学でさらに専門知識を得て、生涯の仕事として生徒達の夢の実現のために支えることを期待しています。また、高大接続改革の在り方について、個別試験の改革が文科省や各大学で話題にのぼっています。新しい時代にふさわしい、多面的・総合的な評価に関する課題解決に高校と大学が連携しながら進むことを期待したいです。

富山支部総会報告

支部長 (60 理化)近藤 智久

理窓教育会富山支部総会は、理窓会富山県支部定期総会と兼ねて開催しています。今年度は、平成 27 年 8 月 23 日(日)15 時から、会場の富山地鉄ホテルにおいて 24 名の参加者のもとで開催されました。「こうよう会」からも右井博幸支部長に参加をいただきました。

総会では、本田宗高会長のあいさつに続き、吉本成香東京理科大学常務理事、島崎益男理窓会副会長からご挨拶がありました。吉本常務理事から発展を遂げる母校の現状と将来へのビジョンを伺い、世界の理科大へと飛躍し魅力ある大学として、ますます存在感を高めていく母校の姿を想像することができました。その後議事に入り、26 年度事業報告、会計報告が承認されました。続いて教育会から、教員採用の現状及び土曜授業や少人数教育の充実、少子化の影響など、小・中学校、高校での取組などについて報告がなされました。

総会終了後、「大学をめぐる動き、入学と就職を中心に」と題して、富山県立大学教授中島範行氏による講演を開催しました。中教審答申を受けての大学入試改革及び高等学校基礎学力テスト(仮称)、大学入学者学力評価テスト(仮称)の動向、さらには、大学におけるキャリア教育の現状など、高校のみならず、小・中学校の教員にとっても、今後の校種間連携や学力向上の在り方に参考となる話題を数多く示していただきました。講演終了後は、中島先生を囲んで参加者全員で記念撮影をし、懇親会に移りました。今年も 20 代や現役学生を交え、意見交換や近況報告など大いに盛り上がり、また、今後とも会員相互の情報交換や会員を増やす努力により理窓会富山支部を盛り上げるべく決意を新たにし、盛況のうちに閉会しました。

岡山支部総会報告

支部長 (46 理工数) 三浦 康男

昨年 7 月に、念願だった理窓教育会岡山支部を設立し、会報の第 46 号で報告しましたが、少し詳しく報告します。

設立総会には、県内の中学校、高等学校の現職の管理職を中心に、12 名が参加しました。この会設立の趣旨を説明し、今後の活動内容などについて協議しました。

活動内容については、教育行政経験者も多くいるため、こうよう会岡山県支部と連携して、教員合格者との懇談会を開催してはどう

かとの意見や、会員相互に現場での実践内容を紹介し合い、相互の研修に努める、名簿を作成し、定期的な会での交流や親睦以外に必要なに応じ平素から連絡を取り合えばよい、などの意見が出ました。これらの意見を基に、活動を具体化していきたいと思います。

定期的な総会等については、理窓会岡山支部総会と兼ねて開催するのも良いが、当面は学校の授業がない長期休業中に開催したり、現職教員が部活動などで出席が難しいことも考慮して、会を夜に開催したりすることも検討することになりました。

また、出席者を多く確保するために、校種別に世話人を置くことも協議しました。

参加者一同、今後は細く長くこの理窓教育会岡山支部の活動を続けていきたいとの思いで散会しました。

なお、理窓教育会岡山支部長は、理窓会岡山支部長が兼務することになりました。

佐賀支部活動報告

支部長(44 理化) 森永 和雄

理窓教育会佐賀支部総会は理窓会佐賀支部総会と兼ねて開催している。本年度は平成 28 年 2 月 14 日(日) 県庁レストラン志乃で来賓を含め 17 名の参加を得て開催した。大学から常務理事の吉本成香様、理窓会本部から副会長の島崎益男様を迎えた。また、「こうよう会」からは次期会長で理窓会の会員でもある隈本泰之様から本県の現役生について報告を受けた。

吉本成香常務理事からは「日本の理科大から世界の理科大へ」躍進する理科大の現況と変革について詳しく説明を頂いた。特に新設なった葛飾キャンパスの様子に驚き、神楽坂、野田のキャンパスなどこれからの展望について話を伺った。

島崎益男理窓会副会長からは理窓会活動の現況について講話を頂き、特に、会員からはグループウェアへの参加について高い関心が示された。

その後、本県の活動や役員承認、規約に関

する協議の後、会員の情報交換に移った。今年度は異業種交流をテーマに5名の会員が医薬業界、幼児教育、有田焼創業 400 年に係る窯業界、電力業界について今日的課題を含めてスピーチを行って交流を深めた。

懇親会は予定時間を大幅にオーバーして盛会裡に終了した。



坊っちゃん科学賞について (48 理物) 長谷川 純一

「理学の普及」を理念とする東京理科大学『坊っちゃん科学賞』も第7回を迎え、全国60校の高等学校から153件の科学論文が寄せられました。分野別審査会、総合審査会を経て、10月25日ホームカミングデーの葛飾キャンパスで「研究論文コンテスト」が開催され、優秀賞5校の発表がなされました。

研究に携わった者、その成果を聞き取る者、会場には科学を迫及しようとする真剣な高校生の姿があふれています。それぞれに研究課題は違っても研究の苦心に敬意を払い合う研究者の姿もあります。練り上げられた発表の方法にも、工夫が感じられます。

仮説に基づいた推論、実験・検証を繰り返してきたことが評価され、秋田県立秋田中央高等学校「マタタビの白化現象の謎に迫る」が最優秀賞に輝きました。学校法人仁川学院高等学校「銀鏡の形成測定」、愛媛県立松山南高等学校「電流のつくる磁場と放射線」、岩手県立水沢高等学校「じゃんけんにおける

効率の考察」、岐阜県立大垣養老学校「分離菌の混合培養」に優秀賞が授与されました。研究を継続的に進めてこられた茨城県立水戸第二高等学校、千葉県立市原八幡高等学校に学校賞が授与されました。

参加校、応募論文の増加や研究内容の深さから、高校生の課題研究環境が拡大され、高校生の科学を迫及する姿勢の高まりを感じます。「理学の普及」が実証された一日でした。

新規採用教員激励会について (55 理物) 並木 正

平成 27 年度理窓教育会主催の新規教員採用試験合格者激励会を平成 28 年 3 月 5 日(土)午後 3 時 30 分から神楽坂校舎 2 号館 211 教室で開催しました。

東京理科大学池北雅彦常務理事・藤嶋昭学長・石神一郎理窓会会長・原田利光こうよう会副会長をはじめとしてご来賓 6 名、教育会会員の現職・OB 教員等、出席者 23 名、また、新規採用教員予定者 50 名、総勢 83 名が出席し、激励会は盛大に行われました。

司会は並木が務めました。富岡康夫理窓教育会会長の挨拶に続き、ご来賓の池北常務理事のご挨拶をいただきました。池北常務理事からは、全国に多くの理科大の先輩方が教員をしており、連携して教育に当たっていただきたいという激励のお言葉をいただきました。続いて石神理窓会会長からお祝いの言葉をいただきました。次に合格者全員が一人一人自分の名前と合格した県名等を述べました。合格者を代表して千葉県立成東高校に配属が決まった中野雄斗君が、感謝の言葉と教職に向けた決意を力強く宣誓しました。

引き続き、武内愛樹先生の司会で懇親会に入りました。来賓としてご出席の藤嶋昭学長・教職教育センター長の眞田克典教授・こうよう会原田利光副会長から励ましの言葉をいただきました。そして教育会奥原千里参与の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。元気な新規採用教員の諸君から今後の抱負が述

べられ、和やかな雰囲気の下、同窓としての先輩・後輩の絆を深め散会しました。

**坊っちゃん賞を受賞して
(51 理数) 瀧田 武彦**

緑濃い昨夏のことでした。レンタサイクルを駆使してしまなみ海道を越え、坊ちゃんゆかりの道後温泉に浸かる旅に誘われたのは何かの引き合わせだったのでしょうか。学生時代の友人が居を構える愛媛と高知を訪れ、連夜の祝宴に舌鼓を打ちながら思い出話に花が咲きました。帰宅すると磯脇先生からお手紙が届いて、坊ちゃん賞推薦云々とあったのです。手拭いを頭にのせ、腕組みしながら道後温泉本館の湯船で唸る気分でありました。

表彰式は大村博士のノーベル賞受賞祝賀から始まり、先輩の偉業に改めて敬意を払う機会となりました。さらに、第 2 回坊ちゃん賞を受賞されておられる博士とは同郷で、高等学校も同窓であり、また山梨県教育長時代には博士が主宰される山梨科学アカデミーで御厚誼をいただいたこともあって気分は高揚し、「今回の受賞は、私にとってはノーベル賞をいただいた気分です」との謝辞を申し上げ、会場の笑いを誘ってしまいました。

受賞されておられる諸先輩と違い、私にはイベルメクチンなどといった有形な業績が遺せている訳ではありません。「子どもたちのために」を信条に、教壇教諭として日々あゆむ中で濃密な時を過ごさせていただいたと感謝するだけです。成果を上げているのは子どもたちであり、支えてくれたのは周りの方々であると考えています。天職の卒業間際には、卓越した政治手腕を持たれる横内知事の下で教育行政に携わる貴重な体験もさせていただきました。

思い起こせば 40 年ほど遡る大学時代に、恩師から受けた薫陶が生きていると考えています。苦難は試練であり、諦めずに粘り強く取り組むことでやがて自らのエネルギーになるとの教えでした。これまでの出会いに感謝し、これからも、”What’s new?” の心で皆

さんの役に立つことを探してまいります。

**グローバルサイエンスキャンパス
高校生が大学に来て学ぶ新たな高大
連携の取り組み**

コーディネータ (49 理物) 春山 修身

グローバスサイエンスキャンパス (Global Science Campus, GSC) 教育事業は、国立研究開発法人科学振興機構 (JST) が平成 25 年から始めた委託教育事業で、高校生 (一部の実施校では中学生を含む) に対して大学レベルの理数系の講義を 1 年間行い、意欲・能力の優れた高校生には更に 1 年の研究活動を大学研究室で行うものである。その目的は、理数能力に優れた高校生に学びと研究の機会を与えて、海外での研究発表や学術専門学会の評価に耐える論文発表をしてもらうことにある。従って、今まで高校生を対象として行われてきたスーパーサイエンスハイスクール (SSH) と異なり、大学での教育・研究活動を行うことにその特徴がある。

平成 25 年から全国 8 大学 (北海道、東北、筑波、東京理科、慶応、京都、岡山、九州)、平成 26 年度は更に 5 大学 (宇都宮、埼玉、大阪、福井、広島) で事業が実施されている。このうち、東北大学、京都大学は募集 120 名、その他の大学は 60 名である。一部の大学では、若干名に対して 1 年目から研究室での研究を実施している。また、2 年目の生徒 (発展コース生) には、海外の教育研究機関での短期研修を義務づけていることも本プログラムの特徴である。

本学のプログラムの特徴を簡単に述べると、次のようになる。①1 年目 (基礎コース) は合計 55 コマ (70 分/コマ) の講義を月 2 回ほど日曜日に行く。②2 年目 (20 名) は配属研究室で 1 年間の研究を行う。このとき、研究日については指導教員と生徒との協議で、研究課題は、生徒独自の設定課題や、指導教員との話し合いで決める場合など様々である。また、短期研修 (一週間程度) はドイツキ

ル大学校内にあるドイツ教育研究所 (ICP) で行っている。

事業が始まって 2 年が経過し、昨年秋には全国中間報告会が行われた。その結果を踏まえて、残りの 2 年間の事業を更に活発に行っていくしますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

同窓の活躍

「出会い、自分らしさをもとめて」

東京都立晴海総合高等学校長

(57 理窓教) 長山 晃一

3 月末をもって 30 年余の教員生活を終えました。理大卒業後すぐに数学科教師として、都立工芸高校、東高校、九段高校(定)で教壇に立ちました。少し教えれば一人で進んでいける生徒、小学校段階まで遡り時間をかけ丁寧に教えてあげなければならない生徒、いろいろな生徒にめぐり会いました。理大で身に付けた柔軟な物の見方・考え方や対応の仕方でも乗り切ってきたように思います。

教員生活の後半、40 代中頃からは管理職としての生活になりました。教頭として葛西南高校(定)、副校長として上野高校(通)、校長として青井高校、六本木高校、晴海総合高校で勤務しました。管理職になる前、私は担任をあまり経験させてもらえなく(2 回のうち卒業生までもてたのは 1 回)、寂しい思いをしていましたが、その分教務主任を長年任せていただいたことが力になりました。管理職は学校運営全般をみなければなりません。管理職として勤務した学校の多くは、生活指導や保護者対応などに多くの時間をとられました。様々な特別な支援を要する生徒も多く見てきました。全てに精通していない私にとっては、一つでも力を発揮してきたものがあつたことで、これらの対応に時間と神経を費やすことができました。特に、教務は学校運営全般を見渡すことができます。他分掌等との調整など学校を組織的に動かすことができます。管理職として学校経営を担った時、若い時にしっか

りと自分に叩き込まれたものが役に立ったと感じました。

校長になって 7 年目、六本木高校(昼夜間三部制単位制総合学科)長の時、全国定時制通信制高等学校長会理事長に推挙されました。定時制教頭・通信制副校長時代を含め、全国組織の役を担うのは初めてでした。着任早々、前理事長からの引継で、全国の定時制・通信制に学ぶ生徒の実態調査を実施することになりました。長い間調査が行われてきていなく、何となく傾向は想像できるものの実態はどのようなものかを明らかにすることが目的でした。丁度中教審の審議が始まり、文科省も定時制・通信制の実態を把握したいところでした。定通 4 団体(全国定時制通信制校長会、全国定時制通信制教頭会、全国定時制通信制教育振興会、全国高等学校通信制教育研究会)による文科省の委託事業で調査を実施しました。調査結果は文科省のホームページにも掲載されています。勤労青少年は全体の約 3% 位であること、全日制の中途退学の経験がある者が非常に多いこと、外国人生徒や発達障害と思われる生徒が多いことなど、様々な実態が浮彫りにされました。また多くの都道府県で、夜間定時制の統廃合と新たなタイプの学校の設置が計画されていることも分かってきました。全国の様々な会議に出席すると、この調査結果について多くの先生方から意見や感想、要望をいただきました。これらを何とかして多くの人に知ってもらうことはできないか。そこへ文科省から中教審高校部会委員就任の依頼がありました(この時は定通校長会、総合学科校長会に声がかかりました)。部会では定通に関する事項について集中的に審議する機会が 3 回行われ、委員・文科省高官の学校訪問・見学も実施され、学校の実態の一端を見てもらいました。殆どの方が定時制＝夜間定時制、それもかなり前のイメージしか想像できず、実態調査の結果が示しているところを実際に見てもらい、協議・審議をすることで、いくらかでも理解を深めてもらうことができたのではないかと思います。

全国定通校長会理事長、中教審委員を務め

させていただく中で、多くの先生方と話を
する機会が得られ、お知り合いになれたことは、
私にとって素晴らしいことでした。それぞれの
地域・学校の先進的で個性あふれる取組に
出会い、それを自校の取組に活かさせていた
だきました。また文科省の若い方たちと知り
合い、忌憚なく話ができたと、この若い方
たちが一つでも多くの学校を自分の目で見て、
政策に反映させたいという、熱い思いを抱い
ていることに期待をしていきたいと思ひます。

私が教員生活を全うできたのは、理大で学
び、多くの方たちと出会い、支えられてきた
からだと思ひます。また、自分らしさを失わ
ないようにしてきました。自分勝手と思われ
ても、心身ともに健康で仕事に打ち込むには
必要であったと思ひています。あらためて皆
様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

大学との連携

理事 (48 理物) 菅井 悟

理窓教育会では、理大教職教育センターが
主催する各種教員採用試験対策講座に、大学
からの要請を受け講師派遣や講座運営の支援
を行っています。平成 27 年度も会員の皆様
のご尽力を頂き、次の講座に講師等の派遣を
しました。

1 教員採用試験対策 講座【事前対策講座】

次年度に教員採用試験
を受験する学生に対し、採用試験に必要な
専門教養、教職教養を
身につけさせるととも
に、教育課題の理解や
論作文能力の向上を目的とする実践的な講座
です。平成 27 年 10 月 4
日～12 月 6 日の日曜日に 8 回実施し、参加者
数は延 419 名でした。

2 教員採用試験対策 講座【私学対策講座】

私学教員を希望する学生を対象とし、採用
試験情報の提供、採用試験勉強方法などを指
導する講座です。本年度は 1 月 14 日 (木)
に行われ 43 名が参加しました。教育会では
センターの依頼により、私学校長経験者や現
職私学教師を派遣し講演を行いました。私学
適性検査過去問の解説、面接、模擬授業も行
われ講師として参加しました。

3 教員採用試験対策講座【合宿コース】

論作文、面接、模擬授業など、教員採用試験
の実戦力向上を目的とし、例年多くの合格
者を出す人気の講座です。本年度も、野田キ
ャンパスセミナーハウスを会場に、2 月 29
日 (月)～3 月 2 日 (水)に行われ学生 78 名が
参加しました。教育会からは講師として首都
圏から 9 名の会員が参加し、教育センター教
員とともに学生の指導にあたりました。ハー
ドな日程にもかかわらず、学生たちは意欲的
に取り組んでいました。

4 プレ教員養成講座

4 月から小中高に新規採用される学生に、
教員としての心構えや実務を指導する講座で
す。3 月 5 日 (土)に開催され 50 名の学生が
参加しました。藤嶋学長の挨拶のあと、本会会
員の山谷安雄中学校長と田神仁高等学校長
による講演がありました。教育会会長や教員
採用試験対策講座で講師を務めた会員の方々
も出席し学生たちを祝福しました。



事務局だより

1. 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 7 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂 2 - 6 - 1

PORTA 神楽坂 7 階 理窓会事務室内

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

2. 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 小久保正己 (編集担当)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール kokubo@rs.kagu.tus.ac.jp

3. 会費の納入について

理窓教育会は会員の皆様の会費 (年額千円) で運営されています。会費の納入は郵便振替をご利用ください。

口座番号 00160-9-715349

加入者名 [東京理科大学理窓教育会]

平成27年度実施 教員採用試験合格者数

平成28年2月27日 現在

校種 教科	公立								私立					公私 合計	
	小学校	中学校・高等学校				特別支援		校種 教科不明	合計	中学校・高等学校					合計
		数学	理科	情報	不明	数学	理科			数学	理科	情報	不明		
北海道		1	1						2						2
宮城		1							1		1			1	2
福島			1						1						1
茨城		3	2					1	6	1	1	1		3	9
栃木										1				1	1
群馬		1	1						2						2
埼玉	1	5	1			5			12	3	1			4	16
さいたま市		1	2						3						3
千葉		16	2						18	7	2	1		10	28
東京都	10	44	23			1			78	10	8			18	96
神奈川		13	6						19	2	1	1		4	23
横浜市										1				1	1
川崎市		1						1	2						2
長野			1						1						1
富山			1						1						1
静岡										2				2	2
愛知										1				1	1
三重		1							1						1
滋賀			1						1						1
大阪府		1							1						1
海外		1							1						1
合計	11	89	42			5	1	2	150	28	14	3		45	195

校種 教科	公立								私立					公私 合計	
	小学校	中学校・高等学校				特支		合計	中学校・高等学校				合計		
		数学	理科	情報	不明	数学	理科		不明	数学	理科	情報			不明
平成27年度	11	89	42			1		7	150	28	14	3		45	195
平成26年度	5	134	46		10	6	2		203	34	17	2		53	256
平成25年度	5	89	60		2	3	3		158	38	18			56	214
平成24年度	1	112	26						139	30	13			43	182
平成23年度	2	89	18			1			110	63	6			69	179
平成22年度		48	21		1	1			71	39	9			48	119
平成21年度		49	15		1	3			68	23	4		1	28	96
平成20年度	4	49	15			3			71	14	4			18	89

表中の数字は、教諭および常勤講師の数 (持ち時数の少ない非常勤講師は除く)